

## 令和7年度 第2回京都府看護師等確保対策推進協議会 概要

1 日 時 令和8年3月3日（火）10時00分～11時30分

2 場 所 京都府医師会館6階会議室601・602  
（京都市中京区西ノ京東梅尾町6）

3 出席者 別紙のとおり

### 4 概 要

#### 報告事項

- (1) 令和8年度看護師確保対策事業に係る予算案について
- (2) 第1回京都府看護師確保対策協議会での主な意見と対応について
  - ① 京都府訪問看護ステーション支援事業
  - ② 看護師等臨地実習受入支援事業
  - ③ 離島・へき地におけるタスク・シフト/シェア推進モデル事業
- (3) 令和7年度北部地域看護師確保対策事業報告
- (4) ナースセンターの取り組みについて  
令和7年度実績及び令和8年度の取組について

#### 協議事項

看護師確保に向けた課題と対策について

- ・ 養成校支援及び潜在看護師への復職支援について
  - ・ 府内就業者の向上・定着を目指した新たな取組について
- その他看護師確保対策について

#### <報告事項についての主な意見>

##### 【離島・へき地におけるタスク・シフト/シェア推進モデル事業】

- ・ 特定行為研修が進まないのは理由がある。病院及び訪問看護の養成負担を丁寧にヒアリングし、経済的・人的負担軽減の支援を強化する必要がある。（勤務先で研修・実習が完結しやすい環境を整える等）
- ・ 北部（丹後など）が受講しやすいよう、受け入れ医療機関への働きかけを進めるとともに、地域ごとの状況を的確に把握し、適切なサポートを行うべきである。
- ・ 国の経験ケース数の要件緩和など最新動向に応じて、制度を柔軟に運用できる体制整備が必要である。
- ・ 特定行為研修修了者の増加を見据え、地域連携力や管理能力を育成する高度人材（ナースプラクティショナー）の検討が必要。しかし、研修期間も長くなるため、送り出す側のサポートが必要。
- ・ 特定行為研修は認定看護師と紐付いている。認定看護師は看護管理の学習もしているので、幅広く地域の看護に資する専門性を拡大していくことになる。今後、視野に入れていただきたい。

＜協議事項についての主な意見＞

【養成校支援及び潜在看護師への復職支援について】

- ・介護施設の看護師は高齢化している。病院の看護師確保が大変な状況。
- ・大学の府内就職率 48%、養成校 85%であるが、看護大学では、卒業生の 99%以上が看護師になる。
- ・京都で育て、京都で活躍してもらえる文化をつくり、魅力を学生に伝えていくことが必要。
- ・実習が大切だが、小児・母性の施設確保が難しい。実習先を全体で作り出すことも必要。
- ・小児・母性の実習先不足に対し、病院以外の受け入れの活用拡大を進めるべきである。
- ・助産学実習の確保に向け、府内でお産を扱う医療機関の受け入れ協力を強くお願いしたい。
- ・大学生に対しては、他産業でもやっているような、学生と企業、施設の交流を積極的にやっていくべき。
- ・京都府、看護協会及び医療団体が一体となって取り組むことが、「学校養成所と病院間の連携を図るためのワーキング」の役割だと思う。
- ・地元の養成校に進学する学生は、地元就職が多い。こういった学生が集まる支援が必要。
- ・看護学校の老朽化・立地課題への対応として、建替え・学習環境（ラーニングcommons等）の整備支援をお願いしたい。

【府内就業者の向上・定着を目指した新たな取組について】

- ・大学の府内就職率（現状約 50%）を 60～70%へ引き上げるための一体的（大学・養成校・医療団体・京都府）な取組が必要である。
- ・顕著な府外流出傾向を踏まえ、京都内での実習枠の確保・病院見学をお願いしたい。
- ・新人 1 年目の不適応、2～3 年目・5 年目の離職ピークに対する体系的な伴走支援が必要である。
- ・柔軟な勤務（短時間・非常勤）やメンタルサポート体制の強化により、離職予防を図るべきである。
- ・実習施設に就職する学生が多い。一方、実習が仇となることもある。大学と実習施設が共同学習会を開催するなどして、実習内容を改善することで、多くの学生が就職するようになった。10 年単位になると思うが、確実性の高い取組だと思う。

【その他看護師確保対策について】

- ・病院の就職状況として、新人の求人はあるが、5 年経つと離職者が出てくる。
- ・離職防止の取組が重要。やりがいをもって、働いていただくかが課題。
- ・看護以外の職場に興味を持つ人も多い。学生が様々な看護職場のイメージできるようにすることが大切。
- ・働き方を多様化し、フルタイムでなくても働けるようにする等キャリアの多様化が必要。
- ・人が減っていく中でいかに職場が寛容になり、すべての人が辞めずに働けるようにすることが大切。
- ・看護職は資格が必要であり、いかに養成校につなげるか入口の支援が必要。
- ・離職者は 3 年課程出身者が多く、ミスマッチがあると思われる。
- ・人手不足の中、学生対応が充分できず、ネガティブな情報が SNS を使って拡散されることがある。一方、充足している施設はどんどん確保が進むという実態がある。